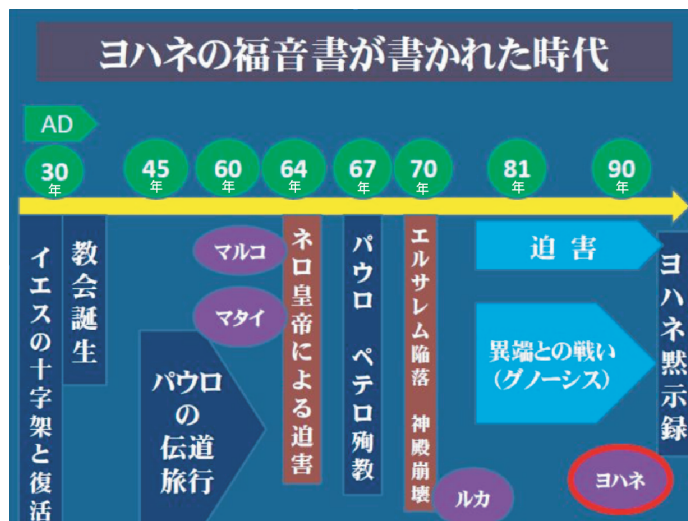


# 友と呼んでくださる イエスさま

## ヨハネの福音書15:15~17



## 福音書が書かれた時代



上の図は、イエスの十字架と復活の出来事があつたAD30年頃からヨハネの福音書が書かれる90年頃までの出来事大まかに記している。ペテロやパウロも殉教の死を遂げ、信仰者も二代、三代と世代が交代していった。AD70年にはエルサレムと神殿が崩壊。ユダヤ人たちは、多くが離散の民(ディアスポラ)となつていろいろな国に散っていった。

## 薄れてきた信仰

世界はローマ帝国の支配の下にあり、迫害が強まってきた。世代はすっかり交代し、時代の流れとともに、かつての生き生きしたいのちに溢れた信仰は薄れてきた。

## 「いのち」を回復するために

時代とともに教会は少しずつ制度化され、組織化され。またグノーシス主義などさまざまな思想との戦いに打ち勝つための整えが必要となつてきた、と同時に、神への信仰のいのちは、空洞化していった。

「いのちの枯渇」への危機を感じた使徒ヨハネは、もういちど信仰の「いのち」を回復するために、どうしてももうひとつの福音書を書き記す必要性に迫られたのではないかと考えられる。

## ヨハネの福音書が書かれた目的は 「信じる」こと

## 「いのちを得る」こと

イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。(ヨハネ20:31)

ヨハネの福音書のいう「いのちを得る」とは、神と人とが、その親しい、豊かなかかわりを持つことを意味している。

そのいのちのしるしとは、かかわりの「親しさ」であり、かかわりの「豊かさ」である。またそこにはかかわりの「喜び」がある。

15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。

15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

## 「しもべ」と「友」との違い

わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

(ヨハネ15:15)

「しもべ」と「友」との違いはあきらかだ。「しもべ」は主人のすることを知らないが、「友」には知られるという違いがある。また、「しもべ」は主人のためにいつも何かをしなければならないというのに対して、「友」は相手の隠されたことをも知って受け入れているというかわりがある。

## アブラハムは神の友と呼ばれた

ヤコブ2:23 には、『「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。』とある。



神がアブラハムに隠し事をされなかった。神はご自分が考えておられることを、包み隠さずすべて彼に告げられた。

## アブラハムを訪れた御使い

創世記18章に、あるとき、3人の御使いがアブラハムの天幕を訪れ、彼の妻サラに来年の今ごろ男の子が生まれているということ告げるためであったが、もう一つの目的があり、ソドムとゴモラという町を滅ぼすかどうか調査するためでもあった。

アブラハムは御使いを見送りに、一緒に行くと、その中の一人は主ご自身であったが、主はこう考えらた。

わたしは、自分がしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。

(創世記18:17)

神は、ご自分が成そうとしいたことを、アブラハムに隠さなかった。ソドムとゴモラの町を滅ぼしに行くと言われた。

## アブラハムのとりなし

アブラハムは、そこに自分の甥のロトが住んでいたのを知っていたので、必死に執り成した。

「その町に50人の正しい人がいるかもしれません。それでもあなたは彼らを滅ぼされるのですか。その50人の正しい人のために、その町をお赦しにならないのですか。」

(創世記18:24)

## 私たちが友と呼ばれた

聖書を通して、私たちに神のみこころを示してくださった。神はどのようなお方なのか、私たちを救うために何をしてくださったのか、私たちが救われて神の国に入れていただくためにはどうしたら良いのか、その神の国に向かって、私たちはこの地上でどのように歩むべきなのか、この世に終わりににはどんなことが起こるのか、といったことのすべてが書き記されてある。

イエス様はそれをすべて私たちに知らせてくださった。それは、私たちが「神の友」、「イエスの友」だからである。

## ディボーションを大切に

友だからこそ何でも聞くことができ、話することができる。私たちは、この関係を大切にしなければならない。

つまり、友の話を聞き、友に話を聞いてもらうという関係である。これが祈りとみことばである。その時間を大切にしたい。そして、決して裏切ることのない永遠の神、主イエスに信頼して、日々歩ませていただきたいと思う。



見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいつ、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。(黙示録3:20)